

CLF

同志社大学

学習支援・教育開発センターレポート

REPORT

Center for Learning support and Faculty development report

2017.10

vol. 27

CONTENTS

01 P2-P3

2017年度の設置部会
ラーネット記念図書館ラーニング・commons
開催報告

- 2017年度新任教員研修会・TA研修会
- 大学院生ランチタイム交流会

P4-P5 02

ラーニング・commons
運営状況

- commonsカフェ
- 同志社大学・東北大学
学習支援スタッフ交流企画
- LA紹介とLA研修
- 学習相談

03 P6-P7

2016年度
「キャンパスライフに
関するアンケート調査」
集計結果

- 学年進行に伴う授業への
取り組みの変化
- 回収率の推移

P8-P12 04

各学部・研究科・センターFD活動報告
各学部・研究科・センターFD活動費について
2017秋学期アカデミックスキルセミナー
学外FD企画参加記 FD関連企画のご案内
BOOKS 新着図書情報
2017年度『大学入学準備講座』のご案内
Column 大学教育の今
「教育の質の向上に向けての取り組み」

2017年度の設置部会

FD 支援部会

教育内容・授業方法の改善を推進するとともに、教育効果に関わる全学的な企画の検討を行うことを目的として設置されています。

部会長からのご挨拶

大島 佳代子



本センターは、これまで全学的な学習支援施策の企画及び実施、全学的な教育施策の企画及び開発、教育活動の継続的な改善の推進及び支援により、大学教育の充実と発展に寄与することを目的として活動を続けて参りました。

2016年度は、FD支援部会、大学院教育検討部会、学習支援検討部会の3つの部会を設置し、各々の事業計画に基づいた活動を行いました。具体的な活動内容については、CLF reportのVol.26をご参照いただければ幸いです。

2017年度は「2017年度に重点的に取り組む課題について」(同志社大学広報誌時813号)の中で示された、本センターと関連する課題の検討を実効的に行うべく部会運営の方法を改めました。2016年度第15回教務主任会議で承認された通り、今年度の設置部会はFD支援部会のみとし、部会委員をいくつかのワーキング・グループに振り分け、課題の検討を行うことを通して、教育活動の改善や教育の充実と発展に繋げていきたいと思っております。

本センターのFD支援部会の活動が全学的なFD活動のひとつとして一層充実したものとなるよう、委員の皆様のみならず、教職員の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2017年度事業計画(各ワーキング・グループの検討項目)

●教育効果点検ワーキング・グループ

教育効果点検ワーキング・グループは、教育改善、教育効果向上を目的に導入された既存のツールと手法(シラバス、授業講評、学生による授業評価アンケート等)について、学生の活用力に焦点をあてた運用の再点検の議論を行うために設置されています。

●内部質保証ワーキング・グループ

内部質保証ワーキング・グループは、DP・CPの機能を意識した内部質保証システム(PDCAサイクル)の確立につながる教育評価(目標設定・評価指標)の開発方法の調査とプロトタイプの提示を目指した議論を行うために設置されています。

●学習支援検討ワーキング・グループ

学習支援検討ワーキング・グループは、ラーニング・コモンズをはじめとする学習環境の活用方法、展開すべき学習支援活動を検討し、特に京田辺キャンパスでの学習支援プログラム及び運営体制を中心に議論を行うために設置されています。

ラーネッド記念図書館ラーニング・コモンズ

ラーネッド記念図書館(京田辺キャンパス)は、より充実した学習スペースを提供するため、2017年8月9日から2018年1月中旬(予定)にかけて改修工事が行われており、リニューアル後は、1階に新しくラーニング・コモンズが開室します。学生同士が相互に多種多様な学びの交流を展開できるエリアとして、参加者はもちろん、周りの人も巻き込みながらさまざまな形態のイベントを開催できるほか、協同学習やアクティブ・ラーニングを展開する空間が設置されます。ラーニング・コモンズ内には、2018年4月から学習支援スタッフも常駐し、学生のさまざまな学習相談に対応する予定です。



開催報告

2017年度新任教員研修会・TA研修会

今年度の新任教員研修会を4月2日に、TA研修会を4月4日・5日・7日に開催しました。
各研修会の動画・資料を下記のページで公開していますので、ぜひご覧ください。

新任教員研修会 「教職員のページ」(本学教職員のみ閲覧可能)

TA研修会 <http://clf.doshisha.ac.jp/ta/ta.html>



今年度は52名の参加がありました。



3日間の開催で合計487名の参加がありました。

大学院生ランチタイム交流会

日時 5月25日(木) 昼休み
(12:15～13:10)

会場 良心館ラーニング・commons内
グローバルビレッジ

対象者 LA、TA、その他大学院生

現役ティーチング・アシスタント(TA)やラーニング・commonsのアカデミックサポートエリアで働くラーニング・アシスタント(LA)等、大学院生同士の交流を深め、大学院生の皆さんが自立した教育者として活動していくためのヒントを得てもらう機会提供を目的として、大学院生ランチタイム交流会を開催しました。

当日はランチを食べながら、TAからの質問・相談にLAが答えたり、LAの経験談や各種エピソード(学部学生に対する助言方法、TA経験を学習相談業務へどう活かしているか等)を参加者に対して提供する中で、大学院生同士が自由に意見交換をしてもらう機会となりました。

A colorful poster for the Graduate Student Lunchtime Exchange event. It features the title '大学院生ランチタイム交流会' and provides details about the date, time, location, and target audience. There is also a QR code and a small image of a drink.

※ラーニング・アシスタント(LA)とは…

良心館ラーニング・commonsで学部生の授業外学習に関する助言、相談業務を担当する大学院生スタッフです。開講・試験期間中の平日11時から19時までの間、様々な分野の大学院生が学習者にアシストしています。

ラーニング・commons運営状況

commonsカフェ

2017年4月から7月にかけて、第23回、第24回、第25回のcommonsカフェが行われました。

※commonsカフェとは…

同志社大学内外の研究者をお招きし、コーヒーや紅茶を飲みながら気軽にトークを行うイベントです。良心館ラーニング・commons 2Fグローバルビレッジで開催しています。毎回、知的好奇心が震える話が飛び出しますが、これを聞くことができるのは参加者だけの特権です。2013年11月に第1回目を開催し、2017年6月に第25回目を迎えることができました。

第23回 日本の古典に親しむ—平安時代の流行歌謡—

日時 2017年4月26日(水) 14:55～15:55

ゲスト 植木朝子教授(同志社大学文学部)

植木先生のご専門は今様とその周辺歌謡です。歌謡好きだった後白河院がこの面白さを後世に伝えるために編集した『梁塵秘抄』を中心に平安時代の流行歌謡についてお話を伺いました。いくつかの印象的な歌のご紹介と解釈の面白さについて解説をいただきました。



第24回 データから見る日本人の「法意識」

日時 2017年6月8日(木) 14:55～15:55

ゲスト 木下麻奈子教授(同志社大学法学部)

法社会学を担当されている木下先生は、法に関わる問題について実証研究をされています。今回は日本人の法意識について1976年調査と2005年調査の比較をもとにお話をいただきました。調査結果を細解きながら、法に関わる諸問題についてお話を伺いました。

第25回 さまよえる五重塔—「国家護持」VS「アート」

日時 2017年6月29日(木) 14:55～15:55

ゲスト 岡林洋教授(同志社大学文学部)

岡林先生は現代美学・現代アート論について研究されています。今回は川俣正さん(造形作家・現代アーティスト)の作品、「足場の塔」のドローン映像を手がかりに美学的なアプローチから作品をどのように読み込んでいくのかというお話をいただきました。



※各回の詳細な開催記録、また今後の予定につきましては、良心館ラーニング・commons HPをご覧ください。

良心館ラーニング・commons HP

http://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/commons_cafe/

同志社大学・東北大学 学習支援スタッフ交流企画

日時 2017年3月2日(木) 13:00～17:30

会場 良心館ラーニング・commons 3F ワークショップルーム02

学習支援サービスの向上を目的として、当センターと東北大学 高度教養教育・学生支援機構学習支援センター(CLS)とで研修の合同ワークショップや実践報告会を行いました。学習支援スタッフとして勤務している学部生・院生同士の交流を深め、自らを客観的に見つめ直し、学習支援者としてのさらなる能力向上やスキルアップを図る機会となりました。



LA紹介とLA研修

2013年度秋学期よりラーニング・アシスタント(LA)を採用し、アカデミック・インストラクターのもとチームとして学習相談を実施しています。2017年度は表1のとおり、6つの研究科から博士前期課程と博士後期課程の合計14名の大学院生が活躍しております。

2017年度新規採用LA4名は全9回の研修に参加することになっています。2017年3月23日(木)と24日(金)に2017年度LA研修(第1～7回)を行いました。第8回のフォローアップ、第9回のワークショップ(講師:早稲田大学 佐渡島 紗織 教授)は秋学期に実施されます(第9回のワークショップは、大学院生・教職員も参加可能です)。

表1 2017年度 LA所属一覧

	博士前期課程	博士後期課程	合計
文学研究科	1	4	5
社会学研究科	1	3	4
法学研究科	0	2	2
商学研究科	1	0	1
総合政策科学研究科	0	1	1
グローバル・スタディーズ研究科	0	1	1
合計	3	11	14

※2017年度春学期終了時点



学習相談

3Fアカデミックサポートエリアでは学習相談を実施しています。CLFレポートVol.25と同様に、昨年(2016年度)の学習相談の内容を月別に集計してみました。2016年4月から2017年3月の相談件数(1870件)は表2の通りです。

まず、「レポートの書き方」、「調査、研究の方法」、「論文の書き方」、「プレゼンテーションの方法」、「レジュメの作り方」に100件以上の相談がありました。中でも「レポートの書き方」、「論文の書き方」で914件と多くを占めています。「その他」も153件ありますが、PC操作、印刷設定の方法など分類できない内容となっています。

次に、時期によって寄せられる相談内容に特徴がみられます。「レジュメの作り方」は春学期に集中し、「レポートの書き方」は6-7月、「調査、研究の方法」は10-11月、12月に「論文の書き方」、「プレゼンテーションの方法」となっています。どのような質問であれ、アカデミック・インストラクター、LA、情報探索アシスタントがチームとなってサポートしています。

表2 2016年度 月別相談件数 (2016年4月1日～2017年3月31日の相談を集計)

学習相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
レポートの書き方	43	60	244	193	16	4	13	25	42	30	5	2	677
調査、研究の方法	13	22	21	18	9	29	65	77	45	12	8	2	321
論文の書き方	4	9	6	17	7	26	27	28	52	28	22	11	237
プレゼンテーションの方法	2	11	31	13	1	3	18	13	38	6	2	1	139
レジュメの作り方	36	2	32	22	0	0	17	5	5	2	0	0	121
文献の調べ方	7	14	16	11	1	4	8	13	18	1	1	1	95
特定の科目の学び方	3	2	3	7	0	0	7	5	4	9	0	0	40
進学・就職など卒業後の進路	4	0	0	0	14	2	1	0	4	3	3	0	31
語学の勉強	7	9	2	6	0	0	1	1	0	0	0	0	26
自分にあった勉強法	5	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	10
学業上の悩み・不安	2	3	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	9
文献の読み方	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5
留学について	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	4
成績について	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
その他	22	25	30	33	7	2	4	7	13	7	2	1	153
合計	150	163	388	320	55	74	165	174	221	98	43	19	1870

総件数(1回の相談で複数の内容も含まれる)

2016年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」集計結果

学習支援・教育開発センターでは、2004年度から「キャンパスライフに関するアンケート調査」を実施しています。この調査は、学生の学習状況や意識を捉えることによって、本学の教育改善につなげることを目的としています。毎年3月下旬の成績交付時に、1年次および3年次の終了時点の学生を対象に調査を行っています。2016年度は、1年次生の調査で5217件（回収率：80.1%）、3年次生の調査で4461件（同70.5%）の回答を得ることができました。

学年進行に伴う授業への取り組みの変化

「キャンパスライフに関するアンケート調査」は、1年次調査と3年次調査で調査項目の多くが共通しています。それゆえ、1年次調査とその2年後に実施された3年次調査の結果を比較することで、学年進行に伴う意識や行動の変化を捉えることができます。

そこで、今回は、「授業に対する取り組み」を題材に取り上げ、大学生活を過ごしていく中で、本学学生の学習行動がどのように変化しているかを検討してみます。なお、今回の分析で使用するデータは、2014年度1年次調査と2016年度3年次調査です。これら2つの調査データを比較することで、2014年度入学生の「授業に対する取り組み」状況の変化を可視化します。

授業に臨む学生の態度や行動を把握することを目的に、「キャンパスライフに関するアンケート調査」では、11の項目を設定し、各項目に対して「よくする」から「全くしない」までの4段階で回答を求めています。図1は、肯定的な回答である「たまにする」と「よくする」の合計 [%] を学年別に集計したものです（1年次調査の「たまにする」と「よくする」の合計 [%] が多い順に項目を並べています）。

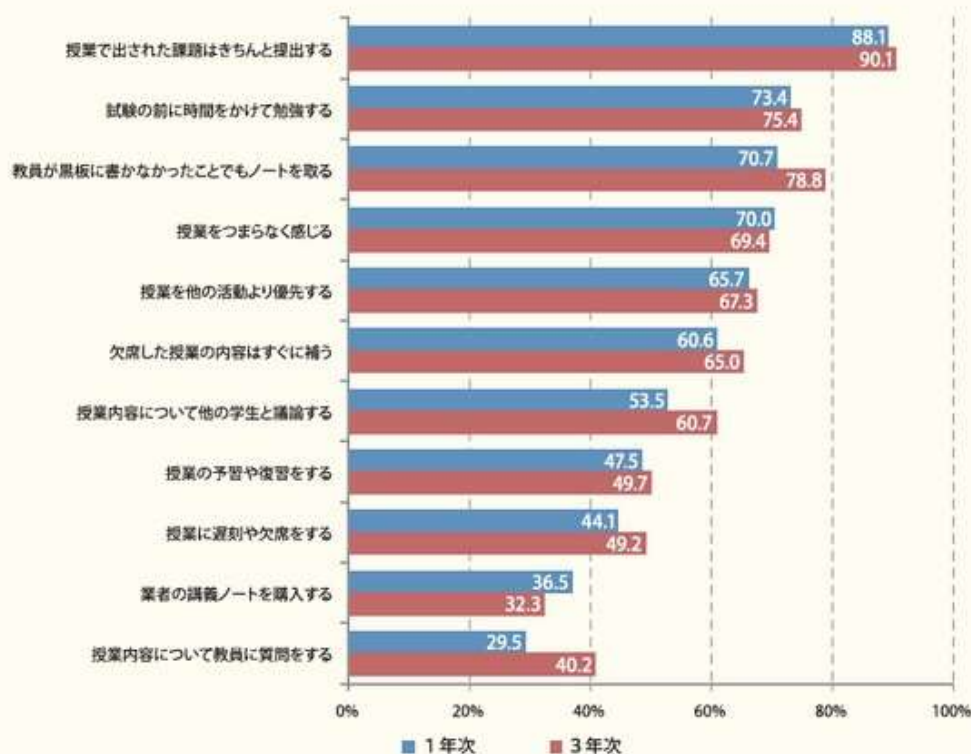


図1：学年別にみた「授業への取り組み（たまにする＋よくする）」（2014年度入学生）
* 回答の選択肢は「よくする」、「たまにする」、「あまりしない」、「全くしない」の4段階。

はじめに、全般的な傾向について確認してみると、「授業で出された課題はきちんと提出する」こと、「試験の前に時間をかけて勉強する」こと、「教員が黒板に書かなかったことでもノートを取る」ことについては、1年次終了段階で7割をこえる学生が実行できており、3年次になっても、それらの高い実行率は維持されています。

続いて、実行率の変化（増減）に着目してみると、「授業をつまらなく感じる」と「業者の講義ノートを購入する」の2項目をのぞき、1年次から3年次にかけて実行率が増加していることがわかります。「教員が黒板に書かなかったことでもノートを取る」こと、「授業内容について他の学生と議論する」ことに関しては、1年次から3年次にかけて、実行率が5ポイント以上増加しています。さらに、「授業内容について教員に質問をする」ことは、1年次の29.5%から3年次には40.2%へと10ポイント以上も増加している点が注目されます。これらの結果から、専門科目の履修が中心となる3年次になると、能動的に授業に取り組む学生が増加していることが確認できました。

しかしながら、図1からは、いくつか気になる点も発見できます。まず、1年次から3年次にかけて、その割合はわずかに減少しているものの、「授業をつまらなく感じる」学生は両学年ともに6割を大きくこえています。さらに、3年次になっても、「授業の予習や復習をする」学生は半数ほどにとどまっています。くわえて、「授業に遅刻や欠席をする」学生は、1年次と比べて3年次で5ポイントほど増加しており、大学生生活に慣れてきたことによる気の緩みも認められます。こうした点への対応が、本学の今後の課題となりそうです。

回収率の推移

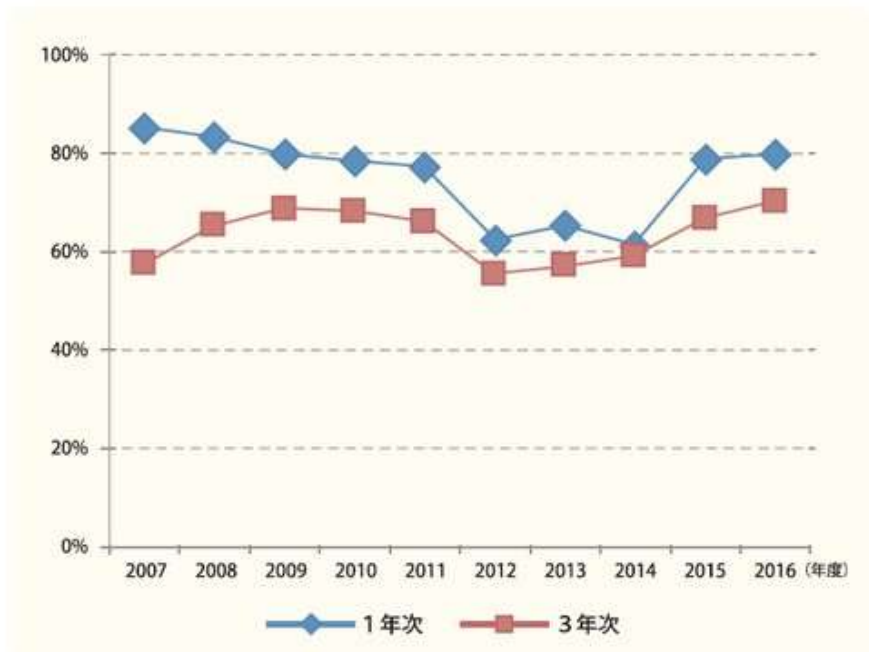


図2：回収率の推移

「キャンパスライフに関するアンケート調査」は、2004年度に開始され（3年次調査は2006年度より開始）、これまで12回の調査を重ねてきました。今回は本調査の歩みを振り返る意味も含め、回収率の推移を確認していきます。

図2は、2007年度から2016年度まで直近10年間の回収率の推移をまとめたものです。図2によると、1年次調査の回収率は、2007年度には80%を超えていましたが、翌年から徐々に低下し、2010年度には80%を下回っています。その後、2012年度に大きく落ち込み、2012年度から2014年度の3年間は60%台で推移しています。2015年度からは、2011年度以前の回収率に回復傾向にあることが読み取れます。

一方、3年次調査の回収率は、2007年度には60%を下回っていましたが、

翌年から徐々に上昇し2009年度には70%に迫っています。2009年度から2011年度の3年間は60%台後半で推移し、1年次調査と同様に、2012年度に回収率が10ポイント以上も低下しています。しかしながら、1年次調査とは異なり、翌年の2013年度から2016年度まで継続的に回収率は上昇し、2016年度には70%を超えています。

続けて、学年別に回収率を比較してみると、2007年度から2016年度までの10年間、1年次調査よりも3年次調査の方が一貫して回収率が低いことが確認できます。ただし、1年次調査と3年次調査の回収率の差は、2007年度には30ポイント弱もありましたが、2008年度以降、徐々に縮小し、2014年度には、その差はわずか2ポイントほどにまで減少しています。2015年度からは、1年次調査の回収率が大きく向上した影響で、回収率の差は、再び10ポイントほどに拡大しています。

このように、本調査は3月下旬の成績交付時に調査を実施するという決して恵まれた調査環境にあるとは言えないものの、他大学で実施している同種の学生調査の回収率と比較しても、近年は高い回収率を維持できています。これも、調査実施に携わっていただいた関連部局の皆さまのご支援・ご協力の賜物です。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

ただし、学部・学科別に回収率をみても、回収率に高低差が確認できます。2016年度調査の場合、最も回収率が高い学部と低い学部の差は、1年次調査で30ポイント弱、3年次調査では40ポイント強も存在し、学部・学科間の回収率には大きな開きが認められます（学部・学科別の回収率の詳細については中間報告書をご覧ください）。本学学生の学習行動・生活実態を見誤らないためにも、学部・学科間の回収率の高低差を是正し、現行の回収率を維持・向上する必要があります。今後も引き続き、本調査に変わらぬご協力をいただきますようお願い申し上げます。

以上、ここまで、「2016年度キャンパスライフに関するアンケート調査」について集計結果の一部を紹介してきました。調査票および集計結果の詳細については、学習支援・教育開発センターのホームページにて公開予定です。

【集計・分析：菅澤 貴之(学習支援・教育開発センター 准教授)】

各学部・研究科・センターFD活動報告

このコーナーでは、各学部・研究科・センターにおけるFD活動の報告を順次掲載していきます。

政策学部

野間 敏克

政策学部では、従来から少人数教育の徹底と社会科学横断的な学習を教育面の特色としてきた。それを発展・強化するために、教員自身による自己評価と、学生や父母とのコミュニケーションを大切にしている。たとえば、1、2年生むけの少人数科目であるFYEやアカデミック・スキルにおいては、授業内容やその成果について、全担当教員からアンケートをとり、情報を共有することで授業改善につなげている。入学時の学生アンケートはFYEの授業時や個人面談の際に活用され、授業内容の工夫や学生との距離を縮めることに役立っている。また、卒業時の学生アンケートや父母懇談会で得られた意見は、カリキュラムを検討・改善する際に重要な参考資料となってきた。具体的な例をあげれば、グローバル化を促進するための科目創設や学部独自の海外活動支援なども、社会および学生・父母のニーズをとらえて実行された、広い意味でのFD活動の一環と言えよう。今後も緻密なPDCAサイクルを切らさず、学部改善につながる施策を実行していくつもりである。

文化情報学部

伊藤 紀子

本学の教育理念を共有しより積極的に実践するために、文化情報学部ではいくつか取り組みを行っている。その一つとして、アカデミック・ハラスメント防止の観点から学生指導のあり方を考えることを目的に、ゲストスピーカーによる基調講演と学部ハラスメント相談員による事例報告を中心に研修会を実施した。前回同様の趣旨の研修会を行ってから数年が経過しており、その間に着任した教員にとっては学生指導のあり方について理解を深めることができ、それ以外の教員についても学部の現状や最新の防止策などを知ることのできる良い機会となった。さらに、分野横断的な本学部の教育の特色を明確にするための教員アンケートを実施した。このアンケート結果をカリキュラムやシラバスに反映させることで、教員は個々の科目での教育目標が、学生は4年間での学習目標が従来よりも立てやすくなると期待される。このようなFD活動に今後も全教員が積極的に取り組むことは、学部の教学において不可欠であると考える。

理工学部

土屋 隆生

理工学部では、毎年いくつかのイベントを開催し、FD活動を継続的に実施している。まず、機械系学科では、教員の教育・研究活動に対する安全意識の向上、学生への安全意識の啓蒙を目的として、実務経験のある外部講師を招いて安全講習会を毎年開催している。電気系学科および情報系学科では、各専門分野の教育研究集会に毎年教員を派遣し、工学教育やFDに関して教員へのフィードバックを実施している。

国際的に活躍できる技術者・研究者を育成するために、理工学部では科学技術に特化した英語教育にも力を入れている。その一つとして、学部科目Academic English for Scienceを2016年度から開設している。本科目は、グローバル人材育成事業の一環として、学部内のFD・教学支援委員会が主導してカリキュラム作成・運用を実施している。また、理工学研究科では大学院教育の改革にも着手し、大学院教育評価アンケートを2016年度から実施することで、フィードバックによる質の高い大学院教育の実現を目指している。

各学部・研究科・センターFD活動費について

学習支援・教育開発センターでは、各学部・研究科・センターレベルでのFDに関する取組に対し、FD活動費（FD支援費）の補助を行っています。以下の点に留意していただき、積極的な活用をお願いします。

FD活動費（FD支援費）の使用例

- 卒業時アンケート調査・新入生対象アンケート調査関連費用
 - 授業評価における専門的知識の提供に対する謝礼
 - FD講演会・セミナー等開催関連費用
 - FD関連書籍購入費用 等
- ※ 組織の懇親会や親睦会は該当しません。

留意事項

- 教員個人レベルでの研究会、研修会参加費、部会委員としての催しへの参加経費等は「教育開発調査活動費」制度より支出する。
- 組織代表者（個人）への支出の場合、その後のフィードバックの状況（内容）を示すこと。
- 補助の対象は非営利活動に限定する。また、文部科学省等の補助事業には使用できない。
- 補助を希望する場合は、事前に学習支援・教育開発センター事務室に申し出ること（申込書の提出が必要）。
- 会合費*を使用する場合は、本学専任教職員を補助対象とする（学外講師の会合費は補助可）。
- FD講演会や会合の開催テーマや趣旨について、資料や記録等を提示すること

* 会合費について

- 研修会開催等の会議費用（昼夜を問わない）及び昼食時における学外講師との懇談費用の場合は1人あたり単価1,200円（税別）までとする。ただし、夕食時における学外講師（＝本学教職員以外）との懇談費用等の場合は1人あたり単価3,000円（税別）までとする。
- 会合費にアルコールは含まない（会合費としての補助は不可）。

ご不明の点は、学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。

2017秋学期アカデミックスキルセミナー

学習支援・教育開発センターでは、大学での学びに役立ててもらおうと、良心館ラーニング・コモンスのアカデミック・インストラクターによるさまざまなセミナーを行っています。

積み上げ型セミナー (全3回=1セット)	概要	日程 ※各回全て12:30-13:00(昼休み内)
〈全3回〉 レポートを書く	レポートの構成の立て方や引用のルールなど、実際のレポート作成を通して学ぶ。 ※課題、作成物に関する講師によるフィードバックあり	・10/11(水), 18(水), 25(水) ・11/09(木), 16(木), 30(木) ・12/05(火), 12(火), 19(火)
〈全3回〉 プレゼン資料を作る	伝わるプレゼンテーション資料の作り方を、実際のスライド作成を通して学ぶ。 ※課題、作成物に関する講師によるフィードバックあり	・10/10(火), 17(火), 24(火) ・11/08(水), 15(水), 22(水) ・12/07(木), 14(木), 21(木)
〈全3回〉 データを用いた文章を書く	図表の作り方・見方・報告書での文章の書き方を実際の文章作成を通して学ぶ。 ※課題、作成物に関する講師によるフィードバックあり	・10/12(木), 19(木), 26(木) ・11/07(火), 14(火), 21(火) ・12/06(水), 13(水), 20(水)
単発セミナー(90分)	概要	日程
情報探索の方法	調べ方の見当もつかないものをどう調べるか。 また、その情報をどのように使用するか。大学で本当に必要な情報探索法を学ぶ。	10/27(金) 4講時
グループでのアイデア出し	グループで多くのアイデアを出す方法、またそれらの絞り方について レクチャーと実習を通して学ぶ。※受講者が3名以上必要	11/17(金) 4講時
単発セミナー(30分)	概要	日程
ノートの取り方	聴きながらとる、読みながらとる。高校までとは違う、大学でのノートの取り方、 まとめ方のコツを学ぶ。	10/16(月) 12:30-13:00
引用の方法	知らないうちに、剽窃行為をしていませんか？ 「コピペ」と言われないレポート・論文の書き方について学ぶ。	12/08(金) 12:30-13:00
伝わる文章の書き方	どうすれば伝わる文章が書けるか、ミニレクチャーと実習を通して学ぶ。	12/18(月) 12:30-13:00

受講を希望される方は、前日までに良心館ラーニング・コモンスHP (<http://ryoshinkan-1c.doshisha.ac.jp/>) から、各セミナーの参加申し込みページへ飛び、お申込み下さい。キャンセルされる場合は、お早めにイベント予約サイトよりキャンセル手続きを行ってください。

※「積み上げ型セミナー」は原則として、1セット(全3回)すべてに出席できることが受講条件となっております。無断欠席はお控えください。

※希望者には受講証明書をお渡しいたします(「積み上げ型セミナー」は1セット(全3回)につき1枚の発行となります)。

※定員は「積み上げ型セミナー」が10名、「単発セミナー」が25名です。

※本学は全て今出川のみで開催となります。

学外FD企画参加記

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメールリストを通じて、FDに関連したセミナーやシンポジウムのご案内をしています。実際に参加された先生にセミナーの様子や感想をお伺いしていますので、今後の参加の参考としてください。

※今後開催予定のFD関連企画はP.11でも紹介しています。

大学教育学会 第39回大会

テーマ 教養教育の再考

開催日 2017年6月10日(土)～6月11日(日)

主催 大学教育学会

経済学部 迫田 さやか 助教

学習支援・教育開発センターの教育開発調査活動費制度を利用させて頂き、6月に広島大学で開催された大学教育学会に参加した。本学会のテーマは「教養教育の再考」であり、教養教育の位置づけ、実施方法を中心として、大学初年次学生に対する教育内容や方法について活発な報告・議論が行われた。

私は、現在、経済学部の1年次向けの「基礎演習」にてレポートの書き方、問いの立て方などのアカデミックスキルズについて、アクティブラーニング方式で指導を行っている。しかし、大学に入学したての1年生への対応に翻弄されている部分もあり、他の先生方がどの様に指導されているのか、より効果的な指導方法について学びたく、本大会に参加した。

多くの先生方の報告を拝聴し、交流させて頂き、得たものは以下の3点に集約される。第一に、アカデミックスキルズの習得については、理解度についてのアンケートを指導前と指導後に行ったり、実際にレポートを書かせてみて学生に比較をさせたりして、学生に自らの成長を確認させる方法が有効であると学んだ。第二に、レポートなど、問いの立て方については、抽象的な問いについて学生はすぐに投げ出してしまいがちであることから、学生の思考経路を操作する様な工夫を入れることで解決すると学んだ。これらの技術についてはすぐに授業に取り入れたい。

最後に、ベテランの先生方も授業方法について工夫を凝らしている姿をお見受けしたことは、私自身も日々三省し指導方法をより良いものにするべく精進しようという決意を持つ契機となった。素晴らしい機会を与えて頂いた学習支援・教育開発センターに心から感謝申し上げたい。

日本私立大学連盟 平成29年度FD推進ワークショップ (新任専任教員向け)

テーマ 大学教員の職能開発とFD

開催日 2017年8月1日(火)～8月2日(水)

主催 日本私立大学連盟

文学部 阿部 俊大 准教授

大学教員が、授業の仕方について学ぶ機会はほとんど無い。というか、多くの場合、全く無い。

自分が学生時代に受けた授業を参考にすると、というのが理想なのだろうが、90年代の大学の授業というのは、私の経験ではお寒い限りの代物だった。昨今では学生アンケートというものもあるが、多くの場合、好き嫌いの表明にしか過ぎず、授業運営の参考になる意見は極めて稀である。

そういった次第で「授業は自分で試行錯誤するしかない」と思っていた。今回のワークショップで事前に通知されたアクティビティも「新任教員が15分くらいずつ模擬授業をして、お互いにコメントをし合う」という、アクティブ・ラーニングの教員版のようなものだ。参加してみると、良い意味で予想を裏切られ、面白かった。フェミニズムについて教える女性教員、女子大で一般教養を教える男性教員、資格試験に関する課目を教える医学系教員、日本近代史を教える文系教員、回路の作り方を教える理系教員等々、同じグループ内の教員の置かれている状況や抱えている問題が千差万別だったのだが、教科や学生の性質に応じて教え方に様々な工夫を凝らしている様子、またその一方で、それぞれ与えられた条件の中で、自分のキャラクターを活かした授業を心掛けている様子が見て取れた。

正直、大学の授業運営に「覚えるとガラッと変わる斬新なテクニックなど」というものは無いと思う。重要なのは、きちんとした授業計画や教材準備の他は、状況に応じた、ちょっとした声のトーンや間の取り方、雰囲気づくりや、何を口にするか、何を板書するか、といった細かい事柄だと思う。今回のFDは、そういった基本的な事柄に気付かせてくれた点で、私には実り多い体験であった。

FD関連企画のご案内

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、学内外で開催されるFD関連企画を紹介しています。メーリングリストでの情報配信をご希望の場合は、学習支援・教育開発センター事務局までお知らせください(本学専任教職員を対象とします)。

今後、学外で開催される主な企画は以下の通りです。その他の企画についても随時お知らせしますので、積極的なご参加をお待ちしています。

研究科・研究会のご案内ページ

<http://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html>

開催日程	企画名称	会場
10月28日(土)	日本私立大学連盟 私立大学フォーラム	関西大学 梅田キャンパス
12月2日(土)	日本私立大学連盟 私立大学フォーラム	愛知大学 名古屋キャンパス
12月2日(土)・3日(日)	大学教育学会 課題研究集会	関西国際大学 尼崎キャンパス
3月3日(土)・4日(日)	大学コンソーシアム京都 第23回FDフォーラム	京都産業大学
3月3日(土)・4日(日)	大学評価学会 第15回全国大会	別府大学
3月20日(火)・21日(水)	第24回大学教育研究フォーラム	京都大学 吉田キャンパス

※上記一覧は予定ですので、開催時期や会場が変更されることがあります。

※参加にかかる費用は学習支援・教育開発センターが負担します。

BOOKS 新着図書情報

学習支援・教育開発センターでは、大学改革やFD関係の図書資料を収集し、専任教職員の方に事務室で閲覧していただけるようにしています。貸出も可能ですので、センターに直接お越しになるか、ホームページ掲載の所蔵図書資料一覧をご覧ください、ご希望の資料があればメールまたはお電話でご連絡ください。学内便でお届けします。

図書資料のご案内ページ

<http://clf.doshisha.ac.jp/books/list.html>



インタラクティブ・ティーチング —アクティブ・ラーニングを促す授業づくり

栗田佳代子
日本教育研究イノベーションセンター(編著)
河合出版
2017.2
ISBN: 978-4-7772-1794-6



学習者中心の教育 アクティブラーニングを活かす大学授業

メルリン・ワイマー(著)
関田一彦 山崎めぐみ(監訳)
勁草書房
2017.3
ISBN: 978-4-3262-5119-3



アクティブラーニング型 授業としての反転授業 実践編

森朋子 溝上慎一(編)
ナカニシヤ出版
2017.5
ISBN: 978-4-7795-1089-2



シリーズ 大学の教授法2 講義法

佐藤浩章(編著)
玉川大学出版部
2017.6
ISBN: 978-4-4724-0532-7

*センターで所蔵した方が良いと思われる書籍等がありましたらご推薦ください。

また、図書の他にも、FDに関する雑誌・機関紙や報告書等を収集しています。上記の「図書資料のご案内ページ」よりご覧いただき、ご活用ください。

2017年度『大学入学準備講座』のご案内

学習支援・教育開発センターでは、高校生向けに、大学で要求される学習の質と量を知ってもらい、正しい学部選択の機会を与えることを目的として、「大学入学準備講座」を開講しています。

この講座では、秋学期の土曜日の午後、各学部・学科の教員が、それぞれの専門分野で扱う学問の内容から面白そうなテーマを選んで、実際の大学での講義と同じ形式で、高校生に授業を行います。

今後開講分の講座については受講申込みを受付けていますので、詳細は以下のURLよりご参照ください。

大学入学準備講座のページ

http://clf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html

	13時10分～14時40分	14時55分～16時25分
9月30日(土) 京田辺キャンパス (夢告館101番教室)	【講座①】電気エネルギーとコンピュータシミュレーション 理工学部電気工学科 長岡 直人 教授	【講座②】社会におけるデータサイエンス ～AI、ビッグデータ時代のリテラシー～ 文化情報学部 宿久 洋 教授
10月7日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座③】グローバル時代における英語コミュニケーション グローバル・コミュニケーション学部 中田 賢之 教授	【講座④】人類学とグローバル地域 グローバル地域文化学部 渡辺 文 助教
10月21日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座⑤】日常生活を支える感覚統合のしくみ 心理学部 竹島 康博 助教	【講座⑥】流行とビジネス 商学部 山内 雄気 准教授
10月28日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座⑦】伝統的社会における「聖なるもの」 ～M. エリアーデの宗教観～ 神学部 三宅 威仁 教授	【講座⑧】のぞいてみよう、 ソーシャルワーカーのアタマの中を！ 社会学部社会福祉学科 野村 裕美 准教授
11月4日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座⑨】開発経済学へのいざない 経済学部 上田 曜子 教授	【講座⑩】日本の経済格差 政策学部 野間 敏克 教授
11月11日(土) 京田辺キャンパス (夢告館101番教室)	【講座⑪】聞こえる音、聞こえない音ー「音」と「超音波」ー 生命医科学部医情報学科 渡辺 好章 教授	【講座⑫】筋力トレーニングによる筋力増加のしくみ スポーツ健康科学部 若原 卓 准教授
11月18日(土) 今出川キャンパス (明德館1番教室)	【講座⑬】紫式部はどんな日本語を話していたか 文学部国文学科 藤井 俊博 教授	【講座⑭】インターネット社会と『忘れられる権利』 法学部法律学科 野々村 和喜 准教授

Column 大学教育の今「教育の質の向上に向けての取り組み」

2008(平成20)年に公表された中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」において、各大学が自らの教育理念と目標に基づき、学生の成長を実現する学習の場として学士課程を充実させることが強く求められた。これに伴い、本学では、すでに各学部・研究科の3つのポリシーの再策定が終了し、学士課程の充実を図るための取り組みを開始している。

学生の成長と一口に言っても、それを目に見える形で示すことは難しいし、短期的に測られる成果が学生の成長のすべてであるともおおよそ言えない。しかし他方で、教育効果や学習成果を測定し、それを全学で共有し、学生に対してより良い教育環境を提供し、教育方法等を開発していくことは、教育の質の向上のためにも重要である。

本学では、教育効果測定の手段として、「学生による授業評価アンケート」(2002年から)と「キャンパスライフに関するアンケート」(2004年から)を実施し、いずれも10年以上のデータの蓄積がある。しかしながら、これらのデータをどう活用するかという課題があった。そこで今年度は、本センター設置のFD部会内の教育効果点検ワーキング・グループにおいて、これらデータを実質的な教育改善へとつなげていくための方策を検討している。年度末には検討結果を報告する予定である。各学部・研究科からも、これらのアンケートにつき、忌憚のないご意見等を聞けば幸いである。

学習支援・教育開発センター所長 大島 佳代子

CLF REPORT
Center for Learning support and Faculty development report

「シーエルエフ レポート Vol.27」

同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日：2017年10月6日

Tel. 075-251-3277 Fax. 075-251-3025

発行者：同志社大学 学習支援・教育開発センター E-mail: ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp

京都市上京区今出川通烏丸東入 明德館1F <http://clf.doshisha.ac.jp/>